

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホーム あさひの家千歳 1階コスモス		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・令和2年1月に開設し、コロナ禍での事業所運営は、厳しい問題もありましたが、職員の協力、ご家族様、関係機関のお力添えを頂きながら、早いもので開設してから3年が経過致しました。派遣職員の減少、職員の離職率も低下して安定した運営が出来ている状況であります。事業所の運営理念、「ありがとう」人生の主役はあなたです～を職員間で意識して入居者様の対応をさせて頂いております。  
 ・アピールポイントとしては、レクへの取り組みです。アイデア豊富な職員が、若手職員に指導をしながら、四季折々のレクや、調理レクなど、入居者様に楽しんでご参加を頂けるよう工夫しております。調理レクの中でも、開設時より、入居者様全員にご参加頂いている、「手作りみそ作り」は、毎年好評で、完成した手作りみそを使っての調理レクを企画したり、昨年度の「夏まつり」では、焼きみそおにぎりにしたりと、手作りならではの、楽しみ方を、入居者様と一緒に職員も楽しんでおります。  
 ・若手職員も増えている為、職員の育成にも力を入れています。自社の資格取得支援制度を利用して、今後、次世代を担う若手職員が、介護の仕事に将来性が持てる様、育成していきたいと思っております。  
 ・「高齢者虐待防止」については、社内研修による「権利擁護」の勉強会、「身体拘束廃止委員会」を主体としての、身体拘束廃止に向けた取り組みなど、高齢者虐待防止への取り組みを職員間で意識付いていけるよう、定期的に確認しながら努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千歳市北陽の新興住宅地に開設し3周年を迎えた2階建て2ユニットの事業所である。頻繁に面会訪問に來れない家族に、オンライン面談や事業所の便り、電話連絡で状況を報告している他、ホームページと職員ブログで利用者の暮らしをぶりを発信している。事業所が行う家族アンケートの結果を職員研修で取り上げ「家族が考える不安」を解決し家族の不安を軽減できるよう検討を重ねながら運営をしている。外出行事が少ない期間は、事業所内で利用者が楽しめる毎月のレクリエーションを季節行事も盛り込み開催し喜ばれている。運営推進会議は、事業所からの各種報告や事故・ヒヤリハット、職員状況など詳細に議事録に記載し、参加できなかった構成員からの意見も載せている。入居時にリビングウィル(人生の最終段階における医療・ケアについての生前の意思表示)を取り交わし、利用者が望む暮らしが実現できるよう職員が温かく寄り添いながら自分らしく生活を続けていけるよう支援をしている。事業所では管理者が職員と面談し目指していることや資格取得の希望を聞きアドバイスをするなど、働きやすい職場環境を整えることで職員の定着率につなげている。事業所の理念に沿って感謝の気持ちで心から有難うと言いつつ、利用者で尊重した丁寧な対応で家族からも信頼が得られている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を目につくところに掲示し、ユニット会議等職員が集まる時に唱和をして意識付けをしている。	理念は共有空間と事務コーナー、多目的室に掲示し、日々意識しながら支援をしている。職員は理念を共有し「お互い様」や「ありがとう」の気持ちを大切に優しい言葉かけで接している。入居時に家族と利用者へ説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルス感染症のために控えていますが今後終息した際には積極的に地域と交流していきたい。	感染対策のため町内会行事を通しての交流が再開出来ない状況にあるが、町内会長が運営推進会議のメンバーになっており、協力を得られている。利用者が屋外で近隣住民と挨拶を交わすことがある。	運営推進会議や災害訓練、事業所の行事の際に、町内の民生委員や近隣住民の参加を依頼するなど、相互協力の体制が取れるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナウイルス感染症のため活動を控えているが町内会長宅には新聞などを届けホームの活動をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルス感染症のため運営推進会議にご家族が出席していただけないが会議の資料と議事録を送付している。	運営推進会議は事業所内で職員と法人関係者により開催している。議事録は報告事項や事故ヒヤリハットなど詳細に記録され、構成員の地域包括センター職員の質問や、法人からの意見も確認できる。議事録は家族を含め関係者に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や事故の報告等、細やかに連絡を取っている。	管理者が市へ運営推進会議の議事録や要介護状態区分の変更等の書類提出で出向いている。事故報告や感染症の状況報告は電話とメールで連絡をしており協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については3ヶ月に一度、「身体拘束廃止委員会」を開催して、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	身体拘束廃止等の適正化のための指針を基に、身体拘束廃止委員会を今年度4回開催し、それらに係る研修も高齢者の尊厳、家族が抱える不安、身体拘束がもたらす多くの弊害、虐待防止をテーマに行っている。令和6年より義務化となる虐待防止についての指針も作成済みである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても研修の機会を設けている。何かあった際は報告し防止に努めている。昨年より職員が1時間30分何もせず座り、葉に見た当たゼリーを他の職員から無言で口に突っ込まれるという身体拘束を体験する研修を行っている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人(入居者)の尊厳を保ち制度への理解を活用するため内部研修の機会を設けている また事務局にも資料を作成してもらい勉強会を開いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に書類をお渡しし内容を確認して頂いた上で当日再度細かく説明をしている。説明の間で都度、不安や疑問点を尋ね十分に話し合い、理解と納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やラインまた面会時に近況報告の際に意見を頂戴している。頂いた意見に関しては速やかに検討し改善対応している。	事業所が行う家族アンケートの結果を基に、どのような事を家族が不安に思うかを研修の議題にして改善に向けた話し合いをしている。家族から出された意見は支援経過記録に残し職員で共有しており、申し送りでも伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞きやすい環境づくりをしている。職員と個人面談も実施しホームで解決できる内容は役職者で速やかに話し合い職員の意見を反映できるように努めている。	ユニット会議や打ち合わせを含めリーダーや管理者が日々職員と話をし意見を聞いている。また、年2回の面談も行っている。リーダー、サブリーダー会議も開催し業務改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を良く聞いてくれている。職場環境が良くなるようにつけてあげてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は少なかったが内部での研修を受ける機会の確保をして頂いた。また資格取得制度もあり対象者には、随時声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はコロナウイルス感染症のため行えないがZoom等での勉強会や医療連携の会などの勉強会に参加させてくれる。 今後は他事業所や他業種と交流ができるようにしたい。今年度は介護グランプリに参加し他事業所との交流を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、安心して生活が送れるように不安やニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり入居者様、家族の方の意見を十分に聞きニーズを引き出す努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況を見極め何が必要か、医療機関、他の専門機関等の意見も参考にし支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個性や生活歴を大切に、ご自分で出来る事は可能な限り本人にして頂き出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らして行ける信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が安心して生活出来るよう家族に近況報告を行い、時には家族の協力を得てご本人をサポートできる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状はコロナウイルスのため外出制限しているが相談を受ければ、外出できます。またホームへ来られることもできるため関係が継続できる。	生け花の好きな利用者、事業所で用意した花を活けてもらい、ピアノが好きな利用者に演奏する機会を提供している。孫の婚礼に参列した利用者もいる。携帯電話を掛けることや電話の取次ぎの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支え合えるように努めている。トラブルになりそうな時は職員が間に入り対応している。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じ相談や支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人やご家族に聞き取り、希望や意向の把握しケアに役立てケアプラン作成をする時に役立っている。	利用者との会話から要望を聞き取り実現している。家族からの要望で利用者の歩行訓練を増やすなど、意向を検討し対応している。意向の確認が難しい利用者とは仕草や表情で読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に生活歴を記入してもらいまた以前の施設等の書類をもらい職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有しサービス記録に記入する等して現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い小さな変化にも職員間で報告、連絡、相談を行い担当者がまとめ3か月に1度(必要な時は随時)担当者会議を行い、その時々現状に応じた介護計画を作成している。	日々の介護記録を検討し毎月のユニット会議で利用者のニーズを話し合い、詳細に課題分析をしている。3か月ごとにモニタリングとアセスメントをしたものをサービス担当者会議で話し合い利用者と家族の意向を取り入れた計画を作り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に内容の実践、取り組み、気づき等を記入し職員同士で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。またサービスのNo.を記入して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり一人ひとりに合ったサービスの提供を心がけ既存のサービスに捉われず、柔軟性をもって個々に合ったサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルス感染症の関係で活用はできないが地域包括センター等と連絡を取り合っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には全員が協力医療機関などの往診を受けているが専門医の受診など入居時前からのかかりつけ医の受診が継続している場合もある為、ご家族と本人の意向も確認して対応している。協力医療機関には受診の結果を随時報告している。	隔週で2か所の協力医療機関の往診があり、訪問看護師の健康管理支援内容とともに「受診健康管理」に記録をしている。必要に応じ歯科の訪問診療も受けている。受診後に投薬変更や変化があった場合は家族へ連絡をしている。	

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の医療連携での報告、相談をして体調不良等不安な事があれば電話連絡し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談員と連絡を取り情報交換を行っている。入院した際は早期退院に向けて協力体制を築いている。病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にリビングウィルの書面により確認している。その後、状態が変化した際は再度意向を確認し本人、家族ともに後悔しないような支援ができるよう配慮している	「重度化した場合における対応に係る指針」を利用開始時に説明し同意書を交わしている。さらに終末期が近い場合に「看取り指針」を説明し同意書を交わしている。職員は看取り研修も実施し、実際に看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがある。その後急変時の緊急ファイルを準備しフェイスシート、保険証のビー、薬情報をファイリングしている。また緊急連絡網を活用し指示を早急に仰ぐことができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の消防訓練は年2回行っている。災害時のマニュアルも用意している。	定期の火災訓練を行い必要な災害備蓄品を揃えている。緊急連絡網に町内会長がメンバーに入っており災害時に協力を得られるようになっている。自然災害発生時における事業継続計画を策定中である。	自然災害を想定した訓練の実施と、災害の際に地域からの協力が得られる体制の整備に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては何度も研修を行っている。また毎月の目標などで職員に呼びかけている。	接遇・マナーや個人の尊厳について等の研修を受講している。「丁寧なケアをしよう」と業務日誌に目標を掲げ意識づけしている。個人記録は保管場所を取り決め管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が希望や想いを発言できるよう働きかけ自己決定が出来るように努めている。例えば服を着替える時は声かけをして自己決定をせよらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人様の意思に沿い支援している。入浴は順番が決まっているので希望に沿えない事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時などは自己決定してもらって好きな服を着ている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事等の時は楽しく食事ができるよう支援している。普段の献立もなるべく同じものが出ないよう献立を考えている。食事の盛り付けや片付けと一緒にして入居者の力を引き出すようにしている。	職員が作成した献立で提供し、日常の食事も手作り味噌を用いたり、開設記念日や敬老会、誕生日には人気メニューの海鮮や天ぷら、バイキング、戸外で焼肉など、調理レクリエーションも企画し食を盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に摂取した食事量、水分量を記録している。食事や水分量の声かけや食事介助なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、各食事の後の口腔ケア、入床時の義歯をはずし消毒などのケアを行っている。また自分で磨けない入居者には職員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄をしてもらえるようにタイミングをみてトイレ誘導の声かけを行っている。	排泄チェックは個人記録に記し、排便の間隔も一目で確認でき個々に応じた適切な排泄支援に努めている。日中は全員がトイレで排泄が可能であり、夜間帯は状況に応じ1名の利用者がベッド上で交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は最終排便の把握をして個々に牛乳や食物繊維の多い飲食物の提供をしている。また協力医と相談をして下剤などを処方してもらい予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は順番制となっているが本人と時間などを相談し、また拒否がある場合は次の日に入浴できるように配慮している。	午前から午後にかけて元旦以外は入浴できる態勢であり、利用者が億劫とならない声かけや誘い方を工夫している。1人ひとり湯を張り替え、入浴剤の使用や昔話、普段の会話にはない話しも交え、職員との1対1の入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば日中に臥床時間を設け休息ができるように支援している。入床時も本人の希望により休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方時の薬情報やお薬手帳などで薬を把握している。また服用時には必ず数を数えて漏れている薬がないかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴などを把握し、食事後の片付け、洗濯物干し、畳み等の手伝い等の役割や趣味の音楽鑑賞等の楽しみ、気分転換の支援を行っている		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染症流行の為、実施できていないが今後はご家族や地域住民の方々と協力しながら外出できるよう支援していきたい。また通院時は家族と一緒に出かけることができる。	天候の良い時期は、事業所周辺の散歩やベンチを置いて日光浴をしている。春にはドライブで勇舞地区の桜や鯉のぼりを見に出かけたり、サーモンパークに行くなどの外出支援を行っている。親族の結婚式に参列した利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針で金銭管理は行っておらずご家族対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また個人で携帯電話を使用して家族と連絡をとっている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、室温、光などを調節している。リビングには季節感を取り入れた物を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間兼食堂にはダイニングスペースとソファコーナーを配置している。感染防止のパーテーションに大切な家族や好きな芸能人の写真を貼るなど工夫がなされている。行事の写真や目をひく制作物が飾られ季節感を感じることができる。利用者の状態に応じて席を変更するなど安心感や居心地に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士でリビングで過ごしたりソファでテレビを観たりしている。独りでテレビを見たい方には居室に環境を整える配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた家具、寝具等を持って来てもらい安心して生活できるよう支援している。	居室には照明器具、パネルヒーター、ナースコールが備えられ、ベッドやタンスの他にテレビや椅子、鏡台、遺影など大切な品々や愛着のある物が持ち込まれている。設えは温かみがあり自室で居心地よく過ごせる環境をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレ、洗面所が分かりやすいように目印を付け工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホーム あさひの家千歳 2階ライラック		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0191100213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・令和2年1月に開設し、コロナ禍での事業所運営は、厳しい問題もありましたが、職員の協力、ご家族様、関係機関のお力添えを頂きながら、早いもので開設してから3年が経過致しました。派遣職員の減少、職員の離職率も低下して安定した運営が出来ている状況であります。事業所の運営理念、「ありがとう」人生の主役はあなたです～を職員間で意識して入居者様の対応をさせて頂いております。  
 ・アピールポイントとしては、レクへの取り組みです。アイデア豊富な職員が、若手職員に指導をしながら、四季折々のレクや、調理レクなど、入居者様に楽しんでご参加を頂けるよう工夫しております。調理レクの中でも、開設時より、入居者様全員にご参加頂いている、「手作りみそ作り」は、毎年好評で、完成した手作りみそを使っての調理レクを企画したり、昨年度の「夏まつり」では、焼きみそおにぎりにしたりと、手作りならではの、楽しみ方を、入居者様と一緒に職員も楽しんでおります。  
 ・若手職員も増えている為、職員の育成にも力を入れています。自社の資格取得支援制度を利用して、今後、次世代を担う若手職員が、介護の仕事に将来性を持つ様、育成していきたいと思っております。  
 ・「高齢者虐待防止」については、社内研修による「権利擁護」の勉強会、「身体拘束廃止委員会」を主体としての、身体拘束廃止に向けた取り組みなど、高齢者虐待防止への取り組みを職員間で意識付いていけるよう、定期的に確認しながら努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議にて、職員全員で運営理念やホーム理念を唱和し、意識付けを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流は行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症対策の為、実施できてはいるが、ホームだより等で地域の方にお伝えできればと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策の為、書面にて事業所の状況や入居者の様子を写真で報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、事故の報告等、細目に連絡を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、3ヶ月に1度、「身体拘束廃止委員会」開催し、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を設け、何かあった際は報告し、防止に努めている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の尊厳を保ち、制度への理解を活用するための内部研修の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に書類を渡し、内容を確認して頂いた上で、入居当日に細かく説明をしており、都度、不安や疑問点を尋ね十分に話し合い、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時、近況報告の際に意見を頂戴して、頂いた意見に関しては速やかに検討し改善対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員との個人面談を実施し、ホームで解決できる内容は役職者で速やかに話し合い、反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意見を言いやすい環境を作ってくれ、良くなるよう掛け合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修に機会は少なくなったが、内部研修を受ける機会の確保をして頂いた。また、資格習得制度もあり、対象者には随時声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症が落ち着いたら、他事業所や多職種と交流ができるようネットワーク作りをしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れるよう、不安やニーズを十分に聞き入れ、ご本人様との信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたり、入居者様やご家族様の意見を十分に聞き、ニーズを引き出せるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を見極め、何が必要かを職員間で情報共有し、医療機関や他の専門機関等の意見も参考にし、支援とサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個性や生活歴を尊重し、ご自身でできる事は可能な限り行っていただき、できない事はサポートし、寄り添いながら生活ができる信頼関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が安心して生活できるよう、ご家族様へ近況報告を行い、時にはご家族様の協力を得て入居者様をサポートできる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス流行の為、外出制限しているが、相談をうければ外出もできます。面会は可能な為、関係が継続できる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間関係が円滑になるよう、職員が見守り、関わり合いながら支え合えるように努めている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さまの希望や思いを傾聴し、ご自身の意向に添えるよう努めており、困難な場合はご家族様に支援を依頼し本人本位で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人の生活歴やこれまでの暮らし方を把握し、生活環境を整え、安心して生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有を行い、サービス記録に記入する等をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にも局員間で情報共有を行い、チームケアとしてケアカンファレンスを行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス記録に内容の実践、取り組み、気づき等を記入し、職員間で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人一人にあったサービスの提供を心掛け、マニュアルに縛られず柔軟性を持ち、個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス流行にて、地域資源の活用は行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、全員が提携医療機関等の往診を受けているが、専門医の受診等、入居前からのかかりつけ医受診が継続されている場合もある為、ご家族様とご本人様の意向も確認して対応している。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (2階ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週、医療連携での報告・相談を行い、体調不良等の不安があれば電話連絡にて助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談員と連絡を取り、情報交換を行ったり、入院時は早期退院に向けて協力体制を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に意向の確認を行っている。その後、状況が変化した際は再度意向を確認し、ご本人様・ご家族様とも、後悔しないような支援ができるよう配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、その後、急変時ファイルを用意し、フェイスシート・保険証のコピー・薬の情報をファイリングする事で対応時に焦らないように準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定で避難訓練を行ったが、地震や水害の想定は行っていない。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「介護をしている」のではなく、「お世話をさせて頂いている」の精神で、一人一人の人格を尊重し、性格等を把握し、誇りやプライバシーを損なわない声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が気兼ねせず、希望や想いを発言できるよう働きかけ、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくご本人様の意思に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きなものを身に付けて頂いている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (2階ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を提供し、楽しく食事ができるよう支援しており、祝い事での献立も工夫している。できる限り、一緒に食事の準備や片付けを行い、入居者様の力を引き出すようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に摂取した食事量と水分量を記録し、個々の好みや苦手な食べ物や飲み物を把握できるように記録に記入し、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしっかりと行っており、就寝前には義歯を外して頂き義歯ケースで洗浄し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する為、職員間で情報共有をし、介助が必要な入居者様にはご本人様やご家族様からの同意を受けた上での支援・トイレ誘導を行っている。また、排泄を失敗した際には、自尊心を傷つけないよう羞恥心やプライバシーに配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄日を記録し、できるだけ自然排便ができるよう、食事は野菜中心として取り組んでいるが、便秘傾向な方は主治医に相談し下剤を服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回で、時間帯は入居者様と相談をして決定している。入浴を好まない方へは、声掛けの工夫をし「入りたい」と心が動いた時にできるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	情報共有にて、一人一人の睡眠パターンを把握しており、日中、一人になりたい時や昼寝がしたい時は自由に休める環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬リストにて薬を確認し、服薬介助を行っている。不明な点がある際は、薬局に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の生活歴等を把握し、食後の片付けや洗濯物干し、畳み等のお手伝いやレクリエーションを行い、気分転換の支援を行っている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今後はご家族様や地域住民の方々と協力しながら、外出できるよう支援していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針で金銭管理は行っておらず、ご家族様対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族様の希望があれば、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・室温・照明の明かり等を調節し、リビングには季節感を取り入れた物を飾り、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士でリビングで過ごしたり、一人で静かにテレビを観たい方には環境を整える配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れていた家具や寝具等をできるだけ持参していただき、居心地よく安心して生活ができるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室・トイレ・洗面所がわかりやすいよう目印を付けて工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム あさひの家千歳

作成日：令和 5年 3月 6日

市町村受理日：令和 5年 3月 7日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・コロナ禍の為、事業所と地域の付き合いが築けない状況であった。町内会自体の活動が停滞している状況。その為、町内会への加入ができていない。課題点としては、近隣住民の方々との公流の場を持つ。	・町内会への加入 ・町内会行事への参加、交流の場を設ける。 ・事業所が町内会への加入する事での、メリット点など理解頂く。 ・地域の民生委員の確認を行い、運営推進会議への参加を要請する。	・町内会長宅に今年度も出向き、町内会への加入を申し出る。 ・現在の町内会の活動状況を確認する。 ・地域の子ども達への安全支援活動として、子ども110番の設置。事業所にて保護ができる様支援する。 ・地域の民生委員については、行政に確認を行う。	3か月
2	35	・自然災害を想定した訓練の実施と、災害の際に地域からの協力が得られる様、地域との体制作りと整備を行う。	・自然災害から出火に繋がる、避難訓練の実施を行う。 ・近隣住民との協力体制の構築。 ・災害備蓄品、非常食の保管リストを作成する。	・地震から、火災に繋がったことを想定しての避難訓練を実施する。 ・町内会長との協力体制を強化し、実際に避難訓練が生じた事を想定して、避難訓練時の協力依頼の実施。 ・災害備蓄品、非常食の保管リストを作成する。	3か月
3	10	・運営に関して、入居者、家族等の意見の反映について、アンケートの内容を充実させ、家族や、入居者の意見を事業所の運営に反映する。	・家族へ向けてのアンケートの内容を充実させる。 ・アンケートで、頂いた意見を反映させて、開示していく。 ・入居している、入居者の方の意見を事業所運営に反映させていく。	・管理者、職員でアンケートの内容を考え、ご家族へ協力依頼を行う。 ・入居者の方への、要望など日常生活場面において、聞き取りを行い、会議の場で抽出した意見を共有して、事業所運営向上に繋げる。	3か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。